

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **ぬくもりの家 東棟**)

事業所番号	0691900039		
法人名	医療法人社団公德会		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	山形県南陽市柗塚929番地		
自己評価作成日	令和2年 9月13日	開設年月日	平成19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに病院(精神科、内科)や老人保健施設があり、健康面、医療面でなじみの先生に迅速かつ継続的に診て頂くことができ、利用者、家族共に安心して生活を送ることができます。専門のリハビリスタッフの助言をもらいながら個別・集団リハビリも行っていきます。食事面では利用者の嗜好や栄養のバランス・旬の食材を取り入れ、畑から収穫した野菜も利用し季節感のある献立に配慮し食事を提供しています。外出して楽しめるようなレクリエーションは現在はコロナ禍で困難となっているが、季節感のあるレクリエーションを月1回程度行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染防止対策のため、外出や面会、人との交流が制限される中で、職員は創意工夫し、法人の夏祭りの代わりに事業所内での縁日、外食の代わりに出前レクなど生活の中での楽しみごとを大切に、笑顔あふれる「ぬくもりのある」生活を支援している。法人の隣接施設と、研修や医療、災害対策等での連携体制が構築され、サービスの質の向上や、利用者・家族の安心に繋がっている。今年7月の豪雨では、普段の訓練と連携による成果で、安全に避難することができた。利用者・家族のアンケートを毎年行い、出された意見や要望に速やかに対応することで、利用者や家族に寄り添ったケアができるよう努力している。職員は普段から利用者とかかわりの中で、利用者の気持ちを推し量り、意向の把握に努めるとともに、カンファレンスで話し合い、介護計画に繋げるよう努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2年10月 8日	評価結果決定日	令和2年10月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を常に意識するように玄関・事務室・デイルームに掲示している。施設会議で理念を深める為の話し合いをして共通理解を持ち日々のケアに活かしている。	法人の理念や事業所独自の理念を見やすい場所に掲示するとともに、管理者はカンファレンス等で振り返りその共有と実践状況を確認している。職員は利用者と日頃のかかわりの中で把握した思いや希望をカンファレンス等で話し合い「一人ひとりの意思を尊重し個人の自由や好みを大切に」した支援につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	行事の時に地域のボランティアサークルに歌や踊りを披露してもらい交流している。ぬくもりカフェに利用者も参加し会話していたが、新型コロナ感染予防のため現在は中止している。地区の春祭りも中止で子ども神輿も中止となり交流出来なかった。	新型コロナ感染防止のため現在は控えているが、例年では併設事業所と協働で認知症カフェを開催し事業所のデイルームに地域の方を招き交流を図っている。法人の夏祭りに招待することや地域の行事に参加することなど地域の方との行き来を大切にしている。理念にも地域との交流を掲げ地域との付き合いを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ぬくもりカフェにデイルームを開放し利用してもらい、グループホームについて理解してもらっていたが、現在は新型コロナ感染予防のためカフェは中止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実情や利用者の状況やサービスの内容、評価への取組み状況について報告し話し合いを行い、そこでの意見で可能なものについてはケアに取り入れ双方向な会議にしていたが、新型コロナ感染予防のため現在は紙面での会議としている。	民生委員、市職員、家族、利用者と2か月に1回開催している。本年は新型コロナ感染防止もあり、文書での会議となっているが、委員より積極的に質問や意見を頂けるよう記載用紙を添付するなど工夫し、出された意見や質問には次の会議で報告や回答をするように取り組んでいる。自己評価結果やそれに対する目標達成計画の説明や家族アンケートの結果、災害訓練の成果等も報告され、様々な意見を頂きサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市の福祉課の担当者に運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情を伝えている。芋煮会に担当職員を招待し利用者と交流する機会をもうけていた。新型コロナウイルス感染予防のため今年は参加してもらう事が難しいと思われる。制度で分からない事は積極的にきいている。</p>	<p>運営推進会議で事業所の実状等を理解いただいている。例年であれば芋煮会等に参加頂き実際に事業所の中の生活も見させていただく工夫も検討されていた。利用者の個別の問題等や、感染症、災害対策など連携をはかり、情報交換や問題解決に向け協働関係を構築している。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について学習会をして禁止の対象となる具体的な行為を理解し日々のケアを振り返り、そのような行為をしないことを確認し合っている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束をしないよう話し合い、会議結果について全職員が目を通すようにし、共通理解をはかっている。</p>	<p>研修会や会議等で職員に身体拘束をしないケアについて周知をしている。事業所独自に身体拘束適正化委員会を組織し3ヶ月ごと委員会を開催している。毎月の会議等で利用者の危険に繋がる行為等について、個別に話し合い、原因や対策を共有し、安易に否定せず見守ることで不適切な対応の無いよう工夫している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者の虐待防止法について学習し虐待についての具体的な行為を理解し、日々のケアを振り返りその様な行為をしない事を確認し合った。利用者の身体にアザや傷等がみられた時は、その日のうちに職員間で何によるものか明らかにして虐待でない事を確認し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護について学習会をして日々のケアで具体的にどの様にするのか理解し確認し合った。現在は成年後見制度を利用している人はいないが、今後必要な人が現れた時は補佐人と相談しながら本人に必要な支援を行っていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結や改定の際は利用者の家族に丁寧に説明し疑問がないか尋ね、理解納得してもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意向・要望等を注意深く受け止め可能な限り応えるようにしている。家族来所時に直接意見や要望を聞くようにし、年に一度利用者・家族にアンケートを行いそれらの要望に応えるよう努めている。新型コロナ感染予防のため周囲の感染状況に応じて面会禁止しているため、電話で要望等聞いている。	毎年、家族・利用者アンケートを行い、意見等を頂いている。今年、毎月のお便りに、利用者個別の生活感のある写真送付の要望があり、速やかに対応している。また、新型コロナ感染防止のため現在は控えているが、面会時には家族とのコミュニケーションを大切にしている。年に1回はカンファレンスに家族の参加を求め意見等を頂けるよう努力している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やフロア会議で職員の意見や提案を聞き運営に活かし、必要があれば上部の会議に提案し可能な限り運営に反映させている。設備や備品で運営に必要なものがあれば検討して設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期に分けて事業計画に沿って各自目標を設定し仕事に取り組んでいる。半期ごとに実績や頑張りなどを評価し各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員がレベルに合った法人内外の研修に参加出来るように年間計画を作成し機会を確保し、施設内では学習係を中心に認知症ケアに関する学習会・その他の伝達研修をして全員がレベルアップできるようにしていた。現在は新型コロナ感染予防のため、外部へ出かけての研修参加を控えオンラインの研修に参加している。	毎年2回、職員が目標を作り管理者等が評価指導することで、職員の力量やケアの実際が把握され、職員のスキルアップに繋げている。法人による研修や事業所で行う実情に応じた研修等学ぶ機会は多い。現在は新型コロナ感染防止のため、ズームなどオンラインでの研修企画が多く、適宜参加している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム協会や置賜ブロック会に加入し研修会や交流会に参加し学習・情報交換していたが、現在は新型コロナ感染予防のためブロック会は中止している。県の協会からはメールで情報を得ている。協会の県大会はオンラインで参加予定している。	山形県グループホーム連絡協議会に加入し、情報交換や学習等に役立っている。今年度は、対面研修や交換研修もなくメールでの情報交換となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを行い、生活歴や心身の状態を把握した上で寄り添い本人と話す機会を多く持つ様になっている。不安や要望を聞き、ケアに取り入れ、安心して生活を送ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を取り巻く家庭環境を把握し、家族の不安や要望に耳を傾けている。入所後も面会や電話等で積極的にコミュニケーションを図りながらより強い信頼関係が作られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の相談内容を十分に見極め、状況や意志に沿ったケアを行えるように努めている。必要があれば他のサービス、制度等を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で職員と利用者が共に過ごす機会や会話を持つ時間を多く設け喜びや不安を分かち合える様努めている。洗濯物たたみや食器拭きを一緒にいき、お互いに支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時やカンファレンス参加時に、ホームでの生活の様子を伝え、家族の意見を聞き、お互いの意見や思いを共有している。毎月の家族への手紙の中で、本人の変化、生活の様子や出来事など詳しく伝えている。面会禁止の期間は電話で情報交換している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などいつでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努めている。来客時には簡易テーブルと椅子を本人の部屋へ準備して、ゆっくと過ごせるように配慮しているが、コロナ禍においては周囲の感染状況に応じて面会禁止としている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性や人間関係を把握し居心地の良い環境づくりに配慮している。利用者の中に入り柔軟に対応する事で相手を理解しお互いに支え合う関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には思い出の写真をアルバムにして渡している。退所後の方向性について相談を受けた時はどのような資源があるか紹介し共に考えている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を汲み取り、個別的な関わりの中で実現出来るような機会をつくっている。普段の生活から思いを汲み取れるように関わり、日々の申し送り・カンファレンス・フロアミーティング等で情報を共有している。	3ヶ月ごとセンター方式アセスメントを活用し、本人の思いや希望、職員の気づき等をCシートに記載しながら再評価している。普段のかかわりの中から思いや暮らし方の希望を注視し、意思表示が難しい利用者には表情や仕草からくみ取り、カンファレンス等で話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、入所後も様々な情報を得られるように、本人・家族との信頼関係づくりに努めている。家族の来訪時は現状を伝え以前の暮らしと比較しながら様々な情報を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握する事と、生活の中での言動・行動・表情などに注意しながら心身の状態の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画が立案出来るように日々のモニタリング・アセスメントを行っている。カンファレンスの際は家族だけでなく関連部署にも参加してもらい様々な情報を共有している。コロナ禍においては、電話で情報の収集を行っている。	毎月モニタリングを行い計画の実施状況を把握し、3ヶ月ごとカンファレンスを行い計画の達成状況の把握や評価を行い見直しをしている。カンファレンスには、機能訓練など関連部署の職員の参加も得て、楽しみごとや役割を踏まえ、現状に即した介護計画が作成している。目標達成計画に掲げた年1回以上の家族のカンファレンス参加については、新型コロナウイルス感染防止のため電話での聞き取りとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、モニタリング表に沿った記録を行っている。また申し送りシートを活用し普段の記録だけではない情報の共有を行い、重要な情報が確実に伝わるよう留意し、日々のケアに活かせるようにしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防団の協力を得て避難訓練に参加してもらい、いざという時に安全に避難が出来るよう入居者と関わってもらっている。新型コロナウイルス発生後は共同での避難訓練が難しくなっている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	同法人の病院(精神科・内科)の受診は職員が通院介助を行っている。また、月に一回内科医が往診を行っている。外部のかかりつけ医の受診は家族が行い、介護タクシーの予約や病院の紹介状の手配など家族の受診の支援を行っている。	併設医療機関との連携が図られている。毎月の往診があり、家族等の安心に繋がっている。また、従前からのかかりつけ医療機関との連携も大切に、受診連絡表等を通して情報が共有されるよう工夫されている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にバイタルチェックや心身状態の観察してもらい、日々のケアの中で身体面で心配な事があればすぐに助言を得られる環境を整えている。看護師の助言をケアに活かし健康管理に努めている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は直接医療機関に訪問し、主治医や医療連携室・病院関係者との情報交換を密にし病院のカンファレンス等にも参加している。面会を通して本人の様子を直接把握し、情報を収集している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、カンファレンス時に家族の意向を聞き、方向性を話し合っている。必要時は主治医と家族の面談を行い、状態の説明や、今後についての相談を行っている。	入居時等早い段階から事業所で出来ること出来ないことを説明し、状態の変化に応じて、カンファレンス等を行い、家族、医療関係者を交え方針の共有を図っている。目標達成計画に掲げた指針の見直しについては引き続き取り組む予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のフローチャートの見直しを行い、職員の動きや他部署との連携・連絡形態を確認している。施設内の学習会で応急手当、AEDの使用法など確認している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練では地域の消防団の方にも参加してもらい、避難・誘導の手順や、火災報知機の使い方などを確認している。(コロナ発生後は消防団の協力なしで行った)水害想定訓練も行い、避難場所へ移動したり、防水シャッターの使い方を確認した。実際に7/28に大雨避難指示があった際スムーズに避難が出来た。	火災等の避難訓練が地域の消防団の協力を得ながら行われている。今年の夏の大雨の際には、普段の訓練の成果を活かし、招集、土のう設置、避難がスムーズに行われている。併設施設との連携もあり、実際に併設施設の2Fでの泊りも経験でき、安全に対応することができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や人権擁護について学習会を開き、理解を深めている。職員の声掛けや関わりに共通の意識を持ち、一人ひとりの人格を尊重してケアを行っている。	研修等が行われているとともに、普段のケアの中で不適切な対応等があれば、職員同士注意し合い、誇りやプライバシーに配慮している。職員は事業所理念を共有し「一人ひとりの意思を尊重し、自由や好みを大切に」人格の尊重を実践している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を出来るだけ聞き取り対応を心掛けている。認知症の進行により自己決定が難しい利用者へは職員が思いや希望を汲み取り対応している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のコミュニケーションを大切にし、一人ひとりの思いや希望を聞くようにしている。一日の大まかな流れはあるがその日の状況、状態を見極め個別のニーズを意識した柔軟なケアに努めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を心掛け、暑さ寒さ等個人の感覚に合わせて調節できるようにしている。月に一度床屋に来てもらい定期的な散髪を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、料理を意識してメニューに取り入れている。利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行う機会を設けている。行事や誕生日等の特別な日には利用者の希望を元に、思い出に残るような食事を心がけている。希望に沿ってラーメンの出前レクやおやつ作りのレクリエーション等を行った。	三食事業所内で調理している。献立は利用者の希望を取り入れながら職員が立てているが、法人の管理栄養士から意見等をもらっている。利用者も調理の過程に参加し、家庭的な食事が提供できるよう支援している。感染症対策もあり外食ができない代わりに出前レクを行い、食事が楽しみなものになるよう工夫されている。家族からの意見で、普段食べているものが分かるよう、献立表の家族への送付も始められた。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持っている職員から、献立について定期的なアドバイスをもらっている。食事量チェック表や水分チェック表、栄養スクリーニング表を活用し、摂取状況を把握し、栄養や水分が十分に確保できるよう努めている。アルブミン値をチェックし主治医に相談し、低下の対策としてラジウム卵を提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にブラッシングの介助や義歯の洗浄を行っている。歯間ブラシや口腔ケアシート等、その人の状況に合わせた口腔ケアをしている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努めている。行動や言動に気を配り、その人に合わせたトイレ誘導、排泄用品を随時検討している。主治医と相談し、時には便秘薬を使用し排便のコントロールを行い排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用し適時の声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。介護計画に排便コントロールを位置づけ医師と連携しながら評価を繰り返し自立に向けた支援が行われている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や適度なリハビリを心掛けながら、日々の水分補給に努め、個々の予防に取り組んでいる。必要に応じ、下剤も服用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個々の体調に合わせてながら入浴をしている。出来る部分は声掛けをしながら行ってもらい、安全に気持ち良い入浴ができるように対応し支援を行っている。</p>	<p>利用者の希望等を考慮しながら最低週2回入浴の支援が行われている。身体状況によりシャワー浴の場合もある。入浴を好まない方にも支援の方法を工夫し清潔が確保できるよう工夫している。入浴剤等を使いながら入浴を楽しむことができるよう工夫もされている。</p>	
45		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中での活動時間を多くし、その時々状況に応じて休息する時間も適度に取り入れている。昼夜逆転を防ぎ、夜間良眠が出来る支援を行っている。</p>		
46		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々が責任を持って分薬し、他の職員との2名体制で確認を行っている。誤薬が無いように支援し症状の変化に努めている。</p>		
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの出来る事の楽しみ事や家事活動、余暇活動を行い、気分転換の支援を行っている。</p>		
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候の良い日は散歩に出かけたり、行事等を企画し家族や地域の人々との協力を得ながら支援を行い、気分転換できる様に支援している。コロナ禍で以前と同様の外出が難しいが、代替えの楽しみを提供できるように工夫している。</p>	<p>例年では花見等季節の行事としての外出や外食が行われていたが、新型コロナ感染防止のため、行事が少なくなり外出の機会も減っている。管理者と職員は、出来ることを工夫し、個別に公園へ出かけたり、法人の農園にブドウ狩りに出かけたり、畑やプランターへの水やりや収穫、敷地内の散歩等、外気に触れる機会を大切し、利用者の気分転換と楽しみごとを創出している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物等の希望があれば外出援助を行い、お金を使う機会を設けている。家族の協力を得て希望に添えるように援助している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>数か月に一度個人のスナップ写真をまとめて家族に送り、日常の様子を伝えている。顔をみながら会話ができるオンライン面会を準備中である。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やダイニング等に、利用者の作品、レク写真を掲示している。季節ごとの花や飾りつけと一緒に、居心地の良い空間づくりを行っている。</p>	<p>居間食堂には椅子・テーブル・ゆったりしたソファが設置され自分の好みの場所で思い思いに過ごす事が出来る。壁面には利用者の作品や思い出の写真がさっぱりと飾られている。温度湿度の管理がなされ、冬期間は加湿器も配置される。寄贈されたピアノの配置で豊かな雰囲気を醸し出し、音楽に親しむ機会が増えてきた。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの配置や気の合う方同士で過ごせるよう随時検討している。ソファには常に好きな歌や音楽が楽しめるようセッティングしている。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや家具の他に、馴染みの寝具や写真等を持ち込んでもらい落ち着いて、居心地よく過ごせる居室を提案し、快適に過ごせるように支援している。</p>	<p>使い慣れた寝具や愛用の小物、賞状、位牌などを持ち込み、季節の鉢植の花などで自分らしい居心地良い居室作りを工夫している。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>張り紙や目印を掲示し場所が覚えやすいように工夫している。建物は全てバリアフリーになっており、利用者の自立と安全確保の配慮に努めている。</p>			